

学校教育ビジョン 【学校教育目標】心豊かにたくましく 自主的に活動し 自らの生き方を創造する 児童生徒の育成 【めざす子ども像】 ・自ら課題を見つけ、進んで学び、将来の夢に向かって努力する子（自主性） ・一人ひとりの違いを認め、思いやりの心を持ち、他社も自分も大切にできる子（道徳心） ・社会のルールやマナーを守り、責任を持って行動できる子（社会性） ・心身ともに健康で、何事にも根気強く挑戦し、やり遂げる子（健全な心身）	【経営目標】 ・授業改善のために主体的に研究・研鑽し、確かな学力の向上に努める。 ・温かで優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係作りを努める。 ・基本的な生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。 ・小中併設校の特色を生かした連携の取り組みを深め、学校・家庭・地域との連携に努める。 ・組織的・機能的な学校運営に努める。
---	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図り、学力向上をめざす。	授業のドリル練習・スキルタイム・家庭学習を通して学習の基礎となる漢字や計算の定着に向けて、反復練習させるとともに、個別の指導を充実させる。	学習指導部 (教務主任・研究主任)	スキルタイムや小テストの実施等により、漢字力や計算力は年々向上しているが、個人や学年によって基礎学力の定着に差がある。今後は、個に応じた適用にも取り組ませ、学年でつくれる力を確実に着けることができる基礎基本の指導を行い、学習の基盤づくりを行っていく。	【成果指標】 学年相当の漢字、計算の力が身につけている。	学年相当の漢字、計算のテスト結果が80%以上である児童の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	国語科漢字テスト1回目と2回目 算数科評価テストの知識・技能の項目(学期末)		
	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を意識した授業改善を推進し、そのために1人1台端末の効果的な利用を進める。	算数科を中心に個別最適な学習の手法として自由進度学習を取り入れ、各クラスで学期に1単元以上、算数科の自由進度学習を行う。	学習指導部 (教務主任・研究主任)	個別最適な学びを意識した授業に各教員が取り組んでいるが、1人1台端末を活用し、算数科を中心にさらに指導の個別化と学習の個性化を意識した授業改善を推進する。	【成果指標】 個別最適な学びを実現するために自由進度による算数科の授業に取り組んでいる。	算数科で自由進度の個別最適な学びを学期に1単元以上行うことができた教員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)		
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止に努め、いじめのない学校づくりに推進する。	いじめアンケート・QU調査そして児童の日頃の様子などをもとに、児童や保護者とときめ細かな関わりを大切にしている。	生徒指導部 (生徒指導主任・道徳推進教員)	児童や保護者とのきめ細やかな関わりを推進してきている。学年によっては自分の思いを相談しにくい児童がいるので、特にその児童に気を配っていく必要がある。些細なトラブルでも早期に対応し、互いを思いやれる優しい心をさらに育てていきたい。	【満足度指標】 児童が友人関係などで悩んだときに、相談できる人がいる。	友人関係などで悩んだときに、相談できる人がいる児童の割合が A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	児童対象アンケート (学期末)		
	明るく、自分からあいさつができる子どもたちを育てる。	児童会・学級会で目標をたて、さらに職員も取り組みを工夫してあいさつ運動に取り組む。	生徒指導部 (生徒指導主任・道徳推進教員)	児童は自分から進んであいさつをしていないと感じている。あいさつを大切さを指導し、教師も自ら模範となるあいさつを実践するとともに、学校全体であいさつについて考えていきたい。	【満足度指標】 明るくあいさつが自分からできる。	明るくあいさつが自分からできる児童が多いと判断する教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)		
③キャリア教育・進路指導	キャリアパスポートを効果的に利用し、将来に向かって希望や夢や目標をもって生きる意欲や態度を形成する。	キャリア教育でつきたい力や重点目標を意識し、年間指導計画に沿った指導を行うためにキャリアパスポートを活用し、年度当初の計画、イベント終了後・学年末の振り返りを充実させる。	生徒指導部 (キャリア教育担当)	キャリアパスポートの活用という新たな取り組みと義務教育9年のスパンでキャリア教育を意識して進めている。しかし、児童の自己肯定感の向上が見られず、課題となっている。「キャリアパスポート」のより効果的な取り組み方を工夫していく。	【満足度指標】 活動後に振り返りを行うことで、児童の自己理解、自己責任能力が高まっている。	振り返りを行うことで、児童の自己理解・自己管理能力が高まっていると判断する教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)		
④保健管理	自ら進んで、健康な体を作ろうとする態度を育てる。	学期ごとに「元気アップ週間」を実施し、自分の生活を振り返る機会を持たせる。	保健体育指導部 (保健主事・養護教諭)	元気アップ週間の取り組みを継続することにより、健康に留意して生活する意識は出てきている。しかし、早起きが苦手な児童やカードに○をつけることだけに終始し、自己の生活習慣の課題を認識して取り組むことができない児童も若干いるので、教職員と児童全体で共通理解して取り組めるように声をかけていきたい。	【努力指標】 「元気アップ週間」期間中の取り組みをもとに、自分の生活習慣の課題を解決するための実践力が身につけている。	「元気アップ週間」に設定した全項目に○をつけている児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	元気アップカード (実施後)		
⑤安全管理	安全教育を推進し、職員の危機管理意識と危機対応能力を高める	避難訓練は、本校の地理的条件を想定して行う。その他感染症予防等の職員の研修を行い安全教育の充実を図る。	教頭・安全教育担当	避難訓練や防犯教室は、小中で連携し、本校の立地条件を想定した訓練を行いたい。また、校内研修を通して安全教育に対する職員の意識を高め児童への指導に活かしたい。	【満足度指標】 避難訓練や研修会を通して、危機管理意識や危機対応能力を高めることができる。	避難訓練や研修会の実施により、危機管理意識や危機管理能力が高まったと判断する教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート 保護者アンケート (学期末)		
⑥特別支援教育	児童についての理解を深め、それぞれの児童の困り感が減るように支援する。	児童の困り感に対する支援を、専門相談や校内支援委員会等を通して検討し、実践していく。	生徒指導部(特別支援コーディネーター)	これまで、児童の困り感が軽減するように支援方法を考えてきた。引き続き個に応じた支援方法を検討し、実践していきたい。	【努力指標】 支援が必要な児童について現状を把握し、支援の在り方を見直す。	児童の現状を把握し、支援の在り方を見直したり、実践できた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)		
⑦組織運営・業務改善	小中の連携分担により円滑な組織運営に努め、業務の平準化をめざす	月1回小中合同の企画運営委員会を開催し、業務の分担や行事の内容の精選について検討する。	企画運営委員会 (校長・教頭・各主任)	業務改善の意識は高まっており、協力体制もできているが、業務が主担当に偏りがちである。	【努力指標】 業務が平準化されるように企画運営委員会で見直し適切に仕事を分担し、実施することができる。	業務が平準化されるように計画し、実施することができたと判断する教職員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)		
⑧研修	ICTの効果的、効率的な活用で授業改善を進める	効果的な研修を設定することにより、自分の授業を見直し、指導力向上をめざす。OJT等のサポート計画をもとに計画的に開催する。	研究推進委員会 (研究主任・GIGA推進リーダー若プロ担当)	ICTを授業で活用しているものの、活用が効果的であると教員も児童も感じていない。	【満足度指標】 研修を通して身につけた技能を授業で有効に活用できた。	OJT、研修で身につけた内容を個別最適な学び、協働的な学びに有効に生かすことができた教員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)		
⑨保護者、地域との連携	コミュニティ・スクールが中心となり、地域、保護者と連携し、「地域とともにある学校づくり」を進める	地域の方や保護者の協力を得て、学校行事だけでなく、地域学習や伝統文化の継承等における学習効果を高める。	教頭 各担当	児童の教育活動の充実のために、より積極的にまた、継続的に地域人材や保護者、学習の素材となる場所を活用する。	【満足度指標】 地域人材等を教育活動の中で積極的に活用し、教育的効果を高めることができる。	地域人材等を積極的に活用し、教育的効果を高めることができたと判断する教職員と保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート 保護者アンケート (学期末)		
⑩教育環境整備	ICT機器を活用し、児童が意欲的に活動できる教育環境の整備と教職員の業務改善を推進する	デジタル教科書等のICT機器を児童が効果的に活用できる授業を行うために教員のスキルを上げる研修を行ったり、教育環境の整備をおこなったりする。	事務・教頭・視聴覚担当	教師も児童も日常的に活用はできているが、より効果的にICT機器を使用できる環境の整備や児童の発達段階に応じたICTの活用の手立てが必要。	【努力指標】 ICT機器等を活用し、児童が意欲的に活動できる教育環境や自身の業務改善を目指す。	効果的にデジタル機器を活用して授業や業務改善に取り組んだと判断する教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)		

学校関係者評価	
---------	--